

教育DXレポート

コアネット私学教育フォーラム2024

京都橘大学 発達教育学部 児童教育学科教授 池田修 氏

これからのAI活用

生成AIを使った授業の実践と今後の可能性

今回は2024年8月20日に行われたコアネット私学教育フォーラム2024より、「これからのAI活用 生成AIを使った授業の実践と今後の可能性」の講師池田氏のお話を抜粋してお伝えします。

「指示を聞く」から「指示を出す」学び

生成AIは文字を情報として、文字で命令すると、新しい文章を生成する「文章の電卓」として現れました。現在は、文字、画像などを情報として、文字、画像などで命令すると、新しい文章、画像、音楽、動画などを生成するところまで来ています。

「書く」は英語で「write」ですが、生成AIによって「Command」、命令することで文章が生成できるようになりました。人間が考えているのは指示する言葉で、結果として出力される文章自体は考えていません。こうした変遷はワープロやスマホと同様に今卒論を手書きで書くことがないように、今は生成AIで文章を作ることに否定的な意見があっても、将来的には当たり前になるでしょう。この流れはもう戻れないところまで来ているということを理解する必要があります。

一方で生成AIはあくまで下書きであり、どのようにブラッシュアップするかにはポイントがあります。従来の「書くこと」が自らの思考を文字にするプロセスであったのに対して、生成AIと共同で文章を作成し、学習者が主体的に問いを立て、生成AIに指示を出すようになります。

学びの形は「指示を聞く」から「指示を出す」学びにシフトします。教員は指示を出すことに慣れているためうまく活用できる可能性がある一方、学習者は指示を出す経験に乏しいため、この点が直近での大きな課題といえます。

学びのための適切な生成AI利用

現状の生成AIは下書きのツールであり、ハルシネーションがあるため最終判断は人間が行う必要があります。生成AIで出力されたものに違和感を感じることができる能力を育てる必要があります。

生成AIに関しては利用に危険が伴うというのが事実な一方、だからこそ大人がそれを教えていくべきでしょう。利用の禁止の是非ではなく、生徒が活用していくための方法は知恵を出し合って考えていくほかありません。

子どもたちが今後出ていく社会では、答えがあるかどうかも分からず、あった場合も正しいのかを考える必要があります。経験もなく情報もない中で判断を下していくためには、試行錯誤が重要になります。生徒にAIを実際に活用してもらうように促すには実際に利用をしている様子を見せるのが効果的でしょう。実際に利用しているところを見せ、利用の時に使ったプロンプトを子供たちに渡して自分でも実際に体験してもらいます。すると出力された結果に納得がいかないというケースも出てきます。その際もその問題を解決できるように生成AIをコントロールするような授業を行っています。

生成AIによってレポート課題が作成されたかをどのように見破るかなどは話題になっていますが、見破ることは難しいです。だからこそ必要なのは、プロンプトなどを添付書類としてつけることで生成AIを適切に活用してレポートを書いたという証明を合わせて提出するなどの工夫です。

何のために学ぶのか、その学びのために適切に生成AIを利用しているのかということがより重要になっていきます。

コアネット教育総合研究所では生成AIの活用に関する研修を行っています。
詳しくは裏面をご覧ください⇒

学校内の教育&授業DX推進！ ICT活用研修のご案内

学校様のご要望に合わせて1回だけの研修から、それぞれのレベルの内容を組み合わせたステップアップ型&パッケージ型の研修も可能です。お気軽にご相談ください。

研修テーマ例

ICT環境整備

- ・端末選定
- ・Wi-Fiおよびネットワーク環境整備
- ・端末の効率的な導入 (BYOD・CYODのメリット・デメリットなど)
- ・授業や学校生活、校務で活用できる各種ツールの導入

など

ビギナー (初心者向け)

- ・ICT端末や機器の基本操作
- ・TeamsやGoogle Classroomなどの学習ツールの基本的な使用方法
- ・ICT導入初期の活用方法 (情報共有・個別学習・協働学習教材作成支援など)
- ・情報セキュリティ、情報モラル、情報リテラシーに関する研修

など

ベーシック (基礎)

- ・ICTを活用した授業支援や授業デザイン
- ・授業外(部活動・委員会・課外活動)での学習ツールの活用
- ・TeamsやGoogle Classroomなどの学習ツールの発展的な活用
- ・クラウドを活用した学習活動
- ・個別最適な学習を支援するツールの活用
- ・情報I授業への対応と各種ツールの活用

など

アドバンス (応用)

- ・ICTベースのカリキュラム・マネジメントとカリキュラム・デザイン
- ・個別最適な学び、協働的な学びの授業づくり
- ・生成AI (ChatGPT・Microsoft Copilot) 活用
- ・教育ダッシュボードの活用
- ・教育データを活用した学びや学校経営
- ・STEAM教育等の新たな教育プログラムの事例紹介や導入
- ・教育DXを実現するためのポイント

など

研修内容例

東京都私立 A中学校高等学校



学習用ツールの操作方法や、ICT端末・学習用ツールの授業・学校生活における活用方法の紹介、CBT等今後活用が進むと考えられるシステムの紹介、STEAM教育等の新たな教育プログラムを導入するポイントなどを、学校事例を基にお伝えする研修を実施しました。

埼玉県B町 教育委員会



埼玉県教育委員会様からの依頼で、町内にある小中学校対象の全体研修を実施し、導入するソフトウェアの操作・活用方法を中心に研修を行いました。また、学校ごとの要望に応じて教員全体やICT担当者向けのミニ研修を実施し、授業での活用方法などをご紹介しました。

お問い合わせはこちら

住所 〒224-0003
横浜市都筑区中川中央1-26-10

TEL 045-914-3005
(担当：岡田、川田、坂本)

E-mail info@core-net.net

ICT活用に役立つ情報公開中

URL www.core-net.net/ict/

教育と学校経営専門のシンクタンク&コンサルティング企業



コアネット教育総合研究所

